

ささゆり通信

「信頼・友情・感謝を大切に

今日も輝け、箕面三中」



令和3年(2021年)4月30日発行

箕面市立第三中学校 学校だより

No. 2

電話 072-723-1151

Fax 072-722-3899

「苦手なところでつながっていく」ということ

支援コーディネーター 水野洋子 益住麻衣

5月! 風薫る好季です。

生徒の皆さんも新しいクラスに馴染んできたと思います。まだ始まったばかりのこのクラスを来年3月には「最高のクラス!」と自慢できるように育てていくのは、皆さん一人ひとりです。この世の中には、自分と同じ人は一人としていません。顔が似ていたり、趣味が一緒の人もいますが、「まったく一緒」ということはありません。それぞれ違う個性を持っています。今年度の三中生は587人。つまり587の個性が集まっているということです。おとなの人数も加えると、三中には実に600を超える個性の持ち主がいるということです。

さて裏のページにある「苦手なところでつながっていく」ですが、これは昨年の1年生(現2年生)が総合の時間に使った教材です。私はこの詩が大好きです。けれども、なぜ「得意なところでつながっていく」という題名でないのかを不思議に思っていました。何度も読んでいくうちに、私なりにわかったことがあります。1つ目は「〇が苦手だ」と言えるのは、「その場が安心だから言える」ということです。苦手なことを伝えても受けとめてもらえるというのは、とても安心で安全な場所です。2つ目は苦手なことがあるから、その苦手なところを補ってくれる人と関われるということです。「困ったよ～、できないよ～」と声をあげると助けてくれる人がいます。

自分がだれかを助ける人になるときもあります。「世の中お互いさま。持ちつ持たれつ。」に気づかせてくれる詩だと思っています。

また「それぞれに必要な環境がちがっているだけのこと」という言葉も大切なことを教えてくれています。「それぞれが自由になれる環境をそこにつくっていけるかどうか」まさに我々おとなが問われていると感じています。

三中生みんな、一人ひとりが「それぞれが自由になれる」環境をみつけられる学校でありたいと思います。

保護者の皆様も、何か気になることがありましたら遠慮なくご相談ください。

■生徒のがんばり

菜の花は
じぶんで動けないから
ハチに花粉をはこんでもらっている



ハチは
じぶんで蜜をつくれなから
菜の花に蜜をつくってもらっている

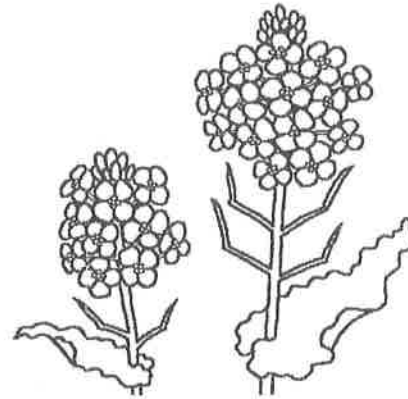
わたしは
計算が苦手だから
お兄ちゃんによく教えてもらっている

お兄ちゃんは
服のセンスが悪いから
わたしによく服の相談をする

子どもは
知らないことが多いから
おとなからいろんな知識を学ぶ

おとなは
忘れてることが多いから
子どもからいろんなおどろきを学ぶ

私たちはみんな
苦手なところがあるから
その苦手なところで
ちがう誰かとつながっている



走れない魚も
海があれば
行きたいところに泳いでいける
魚が動けないわけじゃない

泳げない獣も
陸があれば
行きたいところへ走っていける
獣が動けないわけじゃない

それぞれに
必要な環境が
ちがっているだけのこと

それぞれが
自由になれる環境を
そこにつくっていけるかどうか

駅にエレベーターがあれば
車いすでも
行きたいところに電車でいける

苦手なところで

つながっていく